

人との関わり…

～ある日の「ほし組」コドモンより～

☞「そら組さんて 何でも知っているんだね！」

そら組のお兄さん・お姉さんがセミのオスとメスの見分け方を教えてくれました。

園庭でとったセミをそら組の子どもたちと一緒に観察しているほし組の言葉です。(ところで、セミの雄と雌は、どこが違うのでしょうか、分かりますか?)

～次の日の「にじ組」コドモンより～

☞にじ組がかけっここの練習をしている時、ほし組さんが応援をしてくれたり、中に入らないように守ってくれたりしていました。優しいお兄ちゃん・お姉ちゃんに見守られて意欲満々で走っていました。

小さな子どもがかけっこをすると、ついフィールドの内側を走ってしまいます。そうならないように、ほし組の子どもたちが手を広げてコーナーに立ち、声援を送っていたそうです。

園では、このように年長者が考えたり、気付いたり、できるようになったことを年少者に伝え、逆に、年少者が自ら働きかけ多くのことを学び合う場、つまり、子ども同士が自ら関わりを深める異年齢活動を大切にしています。

核家族化やICT技術の発達に加え、コロナ禍による人間関係の希薄化が叫ばれています。園児が進んで人と関わり、好ましい人間関係を築いていける子になってくれることを願っています。

核家族化やICT技術の発達に加え、コロナ禍による人間関係の希薄化が叫ばれています。園児が進んで人と関わり、好ましい人間関係を築いていける子になってくれることを願っています。



自然との関わり…

担任たちは、子どもの「やりたい」という好奇心や探求心を大切にしています。その1つが、園庭での自然との関わりです。ごく限られた場所での生き物や植物とのふれ合いですが、子どもにとって様々な出会いや学びがあります。そのつづやきを一部紹介します。



☞セミのオスは鳴くけど、メスは鳴かない。オスのお腹には音を出すところ(腹弁)があるけど、メスにはないよ、ほら!

☞白い花(シロツメグサ)をつないだら、こんな首飾りができちゃった。ほら、きれいでしょ。(僕は)その花の4つ葉があるのを見つけたよ。ママにあげるんだ。

☞ダンゴムシは、花(プランター)や石の下にたくさんいたね。おひさまの川(溝)でカニを見つけたよ。何でこんな所にいるんだろうね?たくさん食べ物があるからかなあ?

☞花にいたミツバチをつかまえたら刺されちゃった。ミツバチはかわいいけど、怖いねえ!

このように、昆虫や植物など身近な自然の中で多くの気付きがあります。子どもにとって体験を通して学んだことは、一生忘れることがありません。

セミやバッタなど昆虫の苦手な保育教諭が、素手で虫をつかまえる園児に驚きつつも尊敬しながら、自然とのふれ合いを設定しようとする姿をほほえましく見ている夏の日々です。

お泊り保育、夕涼み会へ

去る7月30・31日に実施したお泊り保育は、新型コロナウイルスの感染拡大のため、宿泊と



入浴を取りやめ、夕涼み会になってしまいました。



その分、担任たちは、一人一人のよい思い出になるようにと、一つ一つの活動に工夫を重ね、準備をしました。



子どもたちの「とっても楽しかった。」
「スイカ割りや花火をもう一回やりたい！」



という声を聞いて、安堵しました。

子どもたちが満足し、無事終了できたのは、急な内容や日程の変更にもかかわらず



ならず、ご理解・ご協力をいただきました保護者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました！

